

# 乙姫城

妻木城址の会

〒509-53

土岐市妻木町3051-1

八幡神社社務所内

TEL0572-57-6441

## 妻木城址の会総会行われる

去る四月十三日に妻木町産業福祉会館において、平成九年度の総会が行われました。当日は多くの会員の方に出席いただきました。

議事に先立って岐阜県陶磁資料館学芸部長河合竹彦氏による「妻木の窯跡」と題する講演がありました。スライド映写を交えた話は、多くの会員に妻木周辺の窯跡の重要性を改めて認識させました。

議事は前年度事業報告、本年度事業案などが承認されました。

## 妻木城調査費四一三万円

土岐市は、平成九年度予算に史跡保存事業として、妻木城の調査費として四一三万円が盛り込まれました。

これは測量調査等の基礎的なデータを得るため

のものです。

また、下刈り等の費用も前年度と同様に予算化されています。詳細は次号でお知らせいたします。

## 草刈り作業のお願い

本年度一回目の草刈り作業を六月八日(日)に行います。妻木城跡への見学者は年々増加していますので、少しでもきれいな状態で散策していただきたいと思えます。皆さんのご協力をお願いいたします。

日時 六月八日(日)午前八時より

二時間程度

場所 妻木城御殿跡

(県道沿い看板前に集合して下さい)



## 織部と雅楽助

妻木城址の会 水野幸爾

慶長十五年（一六一〇年）十二月七日の昼、江戸に於いて古田織部主催の茶会に妻木雅楽助家頼は、正客として招かれている。これは、将軍秀忠の茶道指南役であった織部が、十一月十六日の將軍招待を初回とする計四九回に及ぶ口切の茶会の十七回目にあたる茶会であった。当日の出席者を記録に見ると次のとおりである。

（慶長十五年）  
十二月七日昼

妻木雅楽助家頼  
妻雅楽殿

牧伊予殿

堀伊賀殿  
（堀伊賀守利重）

柳又右殿

青石見殿

半五郎兵衛殿

一床に布袋、棚に引切・くわん、手水の内に

備前の花入に白玉・赤き椿二色入、同間に瀬

戸の水指、茶入せい高、広東の袋に入、柄杓、

引切にのせ、地敷居に置合、茶碗せと、水こ

ほしめんつう、薄茶。

一木具、汁ミそやき付て、柚味噌、このわた、

引而、かうの物、白鳥せんはいり、貝焼、酒

通りて、膾、くわし、卯郎餅、くり、牛房

（古田織部茶書二 市野千鶴子校訂 思文閣出

版刊のうち 古織会附より）

ちなみに、柳又右とは、後の但馬守宗矩である柳生又右衛門と考えられる。それはさておき、織部焼の名の由来とされる古田織部と、この地方を結ぶ資料は皆無に等しく、茶道のトップとしての影響力、あるいは、妻木氏がかつて麾下にあった森氏と織部の姻戚関係による影響を推量するに止まるとき、雅楽助と織部の直接の交流を裏付ける資料は貴重である。

江戸の中頃まで、お茶といえは抹茶を云い地位のある日本人にとって、茶道の知識は必須であった。そうした時代、將軍の茶道指南役は特別な重みがあった。その織部の主催する口切の茶会の正客として出席している雅楽助も又、茶道にすぐれていたと考えるのが自然であり、かつ、高い教養人であったといえる。古田織部にとつて、妻木雅楽助は、美濃の同郷人としての親し

みと、なにより茶道具産地の領主として重要な友人であった。この二人が交わった時代こそ、美濃は、日本一の焼物産地であった。

この時代の焼物を美濃桃山陶として、織部の功績を言う人が多いが、それは、公平を欠いている。桃山陶の産地の領主の意向がより反映されているのが当然であり、織部の意向が届いたとしても、雅楽助を通じての間接的なものではないはずである。美濃桃山陶の歴史を語るとき、雅楽助は、もつと語られてよい存在である。

三月六日、水野黒田は、この茶会に記録された料理を再現した茶会に出席した。江戸の初期、砂糖はまだ貴重であり、一般の料理の味付けは、味噌及び塩が主であったため、再現料理も卯郎をのぞき、塩と味噌で味付けされていた。

結果は、素材本来の味がきわだち、現代の私たちにも充分おいしく感じられるものであった。

## 下石彦右衛門と古田織部

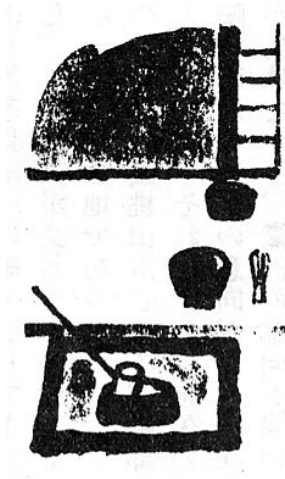
妻木城址の会 黒田正直

織田信長の近臣の中に、下石彦右衛門頼重という武将がいる。残念ながら出身地を記した史料が発見されていないので、土岐市下石町との関係はよくわからない。しかし、土岐氏の一族の中に下石を称した一族が知られており、その流れをくむ人物ではないかと考えられる。「群書類従」土岐系図によれば下石氏は五代守護土岐頼忠(頼世)の孫頼近を祖とする。

下石彦右衛門頼重は、織田信長の奉行として活躍し、多くの記録が残されている。天正四年(一五七六年)には津田宗及の茶会に出席し、翌五年には柴田勝家を、総大将とする北陸派遣軍の視察の任にある。その他に能登への使者、織田大明神の再建、細川藤孝への使者、中川清秀への使者など多くの史料に名前が登場する。特に、天正六年摂津の荒木村重が織田信長に背くと荒木村重に味方した中川清秀の説得工作の任務についた。中川清秀は古田織部と姻戚関係にあり、古田織部も中川清秀の説得工作にあつたており、同じ立場にあつた下石頼重とも、密接

な連絡をとっていたと考えられる。下石頼重は中川清秀が開城した茨木城の守備についています。しかし、天正十年六月二日明智光秀の謀反により、二条城で信長の長男信忠とともに討ち死にしました。

本能寺の変では小里光久(瑞浪市稲津町)や妻木頼知なども討ち死にしたと伝えられており、森蘭丸兄弟など、織田信長・信忠父子の側近に、森氏を中心とした東濃地方の人脈が、あったのではないかと思われる。また古田織部も森氏と姻戚関係にあり、古田織部と妻木氏など東濃地方の諸領主との関係に興味を持たれる。織部焼が出現する以前の武将古田織部と東濃地方の領主は密接な関係が、後に茶人としての古田織部と美濃焼の産地を治める領主としての妻木氏の関係を生んだのではないかと思われる。



## 岩村へ出陣します

六月十五日(日)に開催される「いわむらファミリー・ウォーク」(主催 いわむら町まちづくり実行委員会・中日新聞ほか)に妻木城址の会から手作りよるい部隊がゲスト参加します。

この行事は、町内の史跡を巡ってスタンプを集めるという行事です。参加料五百円で誰でも参加できますので、初夏の一日を城下町岩村で楽しみませんか。

問い合わせは 岩村町づくり実行委員会へ(〇五七三 四三四六二二)、六月十三日締め切り

## 土岐市ふるさと祭りへ参加

八月二日に行われます「土岐市ふるさと祭り」に昨年に引き続き妻木城址の会のテントが登場します。テント内では段ボールを使用した手作り鎧教室が行われますのでぜひお越しください。場所は土岐市駅前の通りです。

## 編集後記

今号は古田織部と妻木氏下石氏との関係について紹介させていただきました。会員諸氏の中には研究されている方もおられると思います。ぜひご意見をお寄せ下さい。本年度事業計画にあります講演会(六月に予定)及びバス研修旅行は日程等の都合により十一月以降に実施いたします。